（3）ベングト・ライステッド　国際地図学協会（ICA）会長

「地理空間データ基盤の象徴としてのアトラス製作」

電子アトラスの整備や，適時の情報提供に大きく貢献するインターネットを介したアトラスについて言及した。また，電子アトラス及びインターネットベースのアトラスと地理空間データ基盤は互いに恩恵をうけ合う関係にあること，さらにインターネットベースのアトラスは，政治的な観点からも，その成果を世論に訴える価値があると強調した。

（4）オラフ・オステンセン　ISO/TC211 議長

「持続可能な地理空間基盤の基礎となる空間標準：現在の整備と取組み」

TC211 の背景と現況ならびに地理情報に関する様々な標準の概念的分類について説明があった。また，地理情報の統合及び相互利用の進展には，オープンGIS コンソーシアム(OGC)のような共通の目的を持つ機関との国際的な協力が最も重要かつ不可欠であると強調した。

（5）村上広史　国連地図課長（国土地理院より派遣）

「国連地理データベース，整備の現状，将来計画及び課題」

安全保障理事会に最新のデータを提供するとともに，国連の空間データ基盤を整備することを目的とした国連地理データベースの開発について概説した。現在整備中の Quick Impact Data(1:1M)，国連地理情報ワーキンググループ(UNGIWG)境界作業部会との協力，複数の応用試験（戦略計画，クリアリングハウス，ウェブの応用試験等）について説明があった。地理情報の需要の伸びに対応するため，国連地理情報委員会の設立が早急に求められていると強調した。

写真－２　招待講演の様子

（6）片木嗣彦　宇宙開発事業団副理事

「宇宙開発事業団による持続可能な開発のための地球観測プログラム」

ADEOS-II の観測用計器やデータ公開予定が紹介された。また，ALOS 衛星システムの完成予定が紹介され，これにより地図作成にかかる費用や時間が大幅に削減されることが強調された。また，データ提供のための ALOS データノードコンセプトについても説明があった。最後に LAPAN，GISTDA，AIT などと共同で実施するアジア太平洋地球観測パイロットプロジェクトについて説明があった。

（7）佐々木稔　海上保安庁水路海洋情報部技術・国際課長（国際水路機関(IHO)代表）

「IHO の活動」

IHO の役割と水路測量の取り組みの重要性を述べた。電子海図とその表示システム及び航海用電子海図（ENC）の概略を紹介し，ENC の整備範囲を世界的に拡大することが重要と指摘した。

３．２．５　セッション「空間データ基盤にかかる経済的問題」

（1）千山善幸　国際協力事業団次長

「開発途上国の国家空間データ基盤プロジェクトへの JICA の援助：アジア太平洋諸国での経験」

地形データの整備をはじめとする各種の開発調査の概要を述べた。地形データ整備において最近の傾向となっている大縮尺（1:5,000）電子地図プロジェクトとして，バングラデシュ・ダッカ市におけるプロジェクトが紹介された。また，自然災害による被害の軽減に役立つと考えられるハザードマップの一例として，グアテマラにおける開発調査の例が紹介された。

（2）ハガイ・ニアポラ　国連アフリカ経済委員会開発情報委員会（CODI）地理情報作業部会長，ケニア測量局長

「アフリカのSDI を率いるCODI 地理情報作業部会の新たな役割」

2001 年5 月に開催されたCODI-II 会議の提言にそって，アフリカ空間データ基盤常置委員会の必要性とその理由を強調した。また，関係者によるワークショップにおいてCODI 地理情報作業部会が「アフリカ空間データ基盤常置委員会」としての役割を担うべきである，とCODI 地理情報作業部会に提言がなされたことを紹介した。最後に，「SDI 整備の必要性を理解することが，広範な支援により与えられる資源の効果的な配分に不可欠であるということを，CODI 加盟国が十分理解することを希望する」と結んだ。